

令和元年度 事業報告書



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

1	救護活動	P1
2	国際活動	P5
3	医療事業	P6
4	看護師養成事業	P8
5	血液事業	P9
6	救急法等の講習	P10
7	赤十字ボランティア	P13
8	青少年赤十字（JRC）	P14
9	広報活動	P15
10	会員の加入促進と活動資金の募集	P16
11	令和元年度一般会計歳入歳出決算概要	P18

救護活動

日本赤十字社が行う災害救護活動は、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。これらの活動は、赤十字の理念に基づき日本赤十字社独自の判断で自主的に行われるほか、災害救助法や災害対策基本法に則り、指定公共機関として国や地方公共団体への協力も義務づけられています。

さらに日本赤十字社は、国民保護法においても指定公共機関として医療救護や救援物資の配分、血液製剤の供給、外国人の安否調査など国民の保護のための措置について、自主性を尊重されつつも国や地方公共団体への協力が義務づけられています。

令和元年度は日本赤十字社岡山県支部が救護班を派遣した災害はありませんでした。

●新型コロナウイルス感染症対策

全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいます。岡山県では、帰国者及びクルーズ船からの下船者の経過観察を支援するため、一時滞在施設に岡山赤十字病院の職員を派遣しました。

活動期間	派遣者
令和2年2月26日～令和2年3月1日	医師1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名

●救護員の任命

災害時、ただちに被災地に出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字病院玉野分院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員、DMAT 要員、薬剤師、血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部救護業務計画」を基本とした体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し災害医療救護関係機関との救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを2チーム編成しました。

救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字病院 玉野分院	岡山県赤十字 血液センター
常備救護班		8個班	1個班	
医師		8	1	
看護師長		8	1	
看護師		16	2	
主事		16	2	
災害対策本部要員	15	11		10
DMAT 要員	4	28	1	
薬剤師		8		
血液搬送要員				2
日赤災害医療 コーディネーター		2		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	2	4		

●救護員の訓練・研修

救護員の救護技術の向上を図るとともに他機関との連携を密にするため、次の災害救護訓練に参加し、研修を実施しました。

災害救護訓練の内訳

訓練名	実施日	実施場所	訓練内容等
			主催団体
岡山県水害特別防災訓練	令和元年6月5日	岡山県庁	図上訓練
			岡山県
岡山県総合防災訓練	令和元年9月28日	津山市	実動訓練
			岡山県
日本赤十字社中国・四国ブロック各県支部合同災害救護訓練	令和元年11月8日～10日	日本赤十字社 鳥取県支部ほか	実動訓練
			日本赤十字社中国・四国ブロック各県支部
水島地区石油コンビナート総合防災訓練	令和2年2月3日	倉敷市環境交流スクエア	図上訓練
			岡山県石油コンビナート等防災本部
岡山県図上防災訓練	令和2年1月17日	岡山県庁	図上訓練
			岡山県

救護員対象研修会の実施・参加

研修会名	実施日	内容
救護員研修会（基礎研修）	平成31年4月20日	赤十字の災害救護活動、トリアージ、救護所運営、救護所シミュレーション等
救護員研修会（実践研修）	令和元年12月14日	避難所の実態と課題、ワークショップ、広域災害救急医療情報システム（EMIS）等
救護員研修会（職種別研修）	令和元年6月29日	主事・災害対策本部要員の役割、情報通信
こころのケア研修	令和元年6月22日	概論、被災者へのこころのケア、救護員のこころのケア等
全国赤十字救護班研修	令和元年7月14日～16日 令和元年8月24日～26日	赤十字の災害救護活動、トリアージ、職種別実習、避難所アセスメント活動演習等
日赤災害医療コーディネート研修	令和元年9月14日～15日 令和元年12月7日～8日	概論、災害医療コーディネート事例検討、本部運営と情報収集、総合演習



●被災者の救援

県下での火災等による罹災者に対し、地区・分区を通じて救援物資及び弔慰金をお届けしました。

救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	198枚
緊急セット	原則1世帯（4人分） につき1セット	54セット
バスタオル	1人につき1枚	90枚
弔慰金	死亡者1人につき 20,000円	280,000円

罹災世帯数等

区分	世帯数
全焼	59世帯
半焼	4世帯
避難	0世帯
その他	2世帯
計	65世帯

死亡	14人
----	-----

●義援金・救援金の受付

令和元年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
東日本大震災義援金	81	2,816,379
平成28年熊本地震 災害義援金	29	6,380,011
平成29年7月5日から の大雨災害義援金	7	15,507
平成30年7月豪雨災害 義援金	511	152,703,470
平成30年北海道胆振 東部地震災害義援金	15	1,222,772
令和元年8月豪雨災害 義援金	22	248,988
令和元年台風第15号 千葉県災害義援金	41	778,977
令和元年台風第15号 東京都義援金	14	126,213
令和元年台風第19号 災害義援金	639	103,141,006

救援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
中東人道危機救援金	4	15,279
バングラデシュ南部 避難民救援金	4	12,033
2019年モザンビーク サイクロン救援金	3	20,850

●災害救護用資器材の整備

災害時の救護活動に欠くことのできない資器材の整備、充実に努め、常に点検を行い資器材の活用が一層有効に行われるよう、万全を期しています。

令和元年度は次の資器材を整備しました。

品目	整備数
赤十字業務用無線	24

●地区・分区資器材等整備事業

地域の災害対応能力強化のため次のとおり資器材等を配備しました。

品目	配備数	配備先
災害救援車両	9	岡山市地区本部、笠岡市地区、井原市地区、備前市地区、美作市地区、里庄町分区、鏡野町分区、勝央町分区、西粟倉村分区
倉庫	6	津山市地区、新見市地区、早島町分区、里庄町分区、鏡野町分区、西粟倉村分区



●臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベント、スポーツ大会等において、参加者等の安全を図るために、医師・看護師・主事等で編成した救護班やボランティアを次のとおり派遣しました。

No.	実施日	行事名	派遣者数 (人)	取扱傷病 者数(人)
1	平成31年4月21日	津山加茂郷フルマラソン全国大会	19	18
2	令和元年8月25日	倉敷ジュニアトライアスロン大会	8	12
3	令和元年9月8日	倉敷国際トライアスロン大会	15	21
4	令和元年10月20日	蒜山高原マラソン全国大会	14	13
5	令和元年11月10日	おかやまマラソン	27	67
6	令和2年2月15日	西大寺会陽	32	5
計			115	136

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めることを目的に、平成29年度から本格的に取り組みを始めたもので、町内会・自治会等へ次のとおり指導者を派遣しました。

プログラム名	内容	件数 (件)
図上防災訓練 (DIG)	住民が居住地域の防災上の脆弱性や強みを地図上で確認し、地図を囲んでの意見交換を通じて防災意識を高める。	2
災害エスノ グラフィー	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。	3
非常食炊き出し	炊飯袋等を使用した非常食の体験を通じて災害時の食を考える。	15
災害への備え (講義)	災害から命を守り身の安全を確保するために平時から準備すべきことを理解する。	28
その他	身近にあるものを用いた応急手当や一次救命処置の実技等を行い、知識・技術を身につける。	6
計		54

2

国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和元年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

●アジア・大洋州給水・衛生キット支援事業

岡山県支部では、アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域における、給水・衛生キットを整備する事業に対し資金的援助を平成22年度以降続けており、令和元年度も引き続き行いました。

●インドネシア・コミュニティ防災事業

岡山県支部では、災害多発国であるインドネシアに対し、地域に根差した包括的な防災、減災活動にかかる事業への資金的援助を引き続き行いました。

●東ティモール赤十字社救急法普及支援事業

日本赤十字社では、アジア・大洋州地域の姉妹赤十字・赤新月社が実施する救急法等の普及支援事業の一環として、東ティモール赤十字社が行う救急法の普及事業を平成16年度から継続して支援しています。

岡山県支部では、資金援助のほか救急法指導員のボランティア1名を東ティモールへ派遣しました。



●NHK 海外たすけあい

令和元年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金活動を実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和元年度(第37回)「NHK海外たすけあい」	695	6,604,880

3

医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字病院玉野分院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から介護まで特色ある医療事業を展開しています。

各施設においては、公的医療機関として、また地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療との連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しています。

●岡山赤十字病院

岡山赤十字病院では、県南東部医療圏の中核病院として、令和元年度においても救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院として災害医療・救護を担い、公的医療機関としての役割を担いました。

6月には、「もっと知ってほしい胃がんのこと」をテーマに市民公開講座を開催しました。消化器内科部長と消化器外科部長が講師となり、内科的治療、外科的治療の現在と新しい治療法についてビデオなどを使用しながらわかりやすく解説し、多くの市民の方の参加をいただきました。

9月には、「日本医療マネジメント学会第23回岡山県支部学術集会」を岡山赤十字病院で開催しました。「今、改めて組織の災害危機管理を考える」をテーマとし、平成30年7月豪雨災害体験についての講演や災害時に必要なBCP（事業継続計画）策定についての講演のほか、院内外から参加した医療関係者で議論しました。

また、地域の医療機関と合同での研修会・講演会等を頻回に開催することにより全職員が協力して連携強化を推進しています。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	延患者数	153,439人
	1日平均	419.2人
外来	延患者数	270,353人
	1日平均	1117.2人



●岡山赤十字病院玉野分院

玉野分院においては、内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科の診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

玉野分院では回復期及び慢性期の患者が中心となることから、急性期病院からの転院が多く、急性期を脱した内科やリハビリテーションを必要とする患者を受け入れました。

また、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院や終末期医療を希望する患者の受け入れにもあたりました。

さらには、併設する老人保健施設とともに、在宅復帰を目的とした医療や介護サービスを行い在宅医療の推進にも努めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数	26,154人
	1日平均	71.5人
外来	患者数	14,205人
	1日平均	59.7人



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者の家庭復帰を目指しています。

また、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、通所リハビリテーションにおいては、1日（6～8時間）コースと短時間コースを設けることで、より利用者のニーズに沿ったサービスの提供を行っています。

併設する居宅介護支援事業所では、老人保健施設や通所リハビリテーションの利用者だけでなく、訪問看護をはじめ、在宅で療養されている要介護者等に日常生活の世話や家族・介護者の介護負担軽減のためのホームヘルパー等の利用を提案し、利用者に合った最適な介護保険サービスのマネジメントに努めました。

利用者数

入所	入所者数	31,529人
	1日平均	86.1人
通所	通所者数	5,625人
	1日平均	23.6人



●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」、地域からの要望により医師等を派遣し講演を行う「健康講演」を開催しました。

また、学校の児童・生徒にアナフィラキシー症状（重篤なアレルギー反応）が出た場合に学校職員が対処できるよう、岡山県教育委員会と岡山赤十字病院の医師・薬剤師、岡山県支部が連携して養護教諭等を対象とした「小児のためのアナフィラキシー研修」を2回開催しました。

実施状況

種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)
健康講座	7	907
健康講演	9	577
アナフィラキシー研修	2	79



4

看護師養成事業

昭和10年に日本赤十字社岡山支部病院救護看護婦養成所が開設されて85年目を迎えました。

岡山赤十字看護専門学校では、人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を備えた看護実践者を育成しています。

これらの教育理念のもと、看護技術教育、倫理教育、医療安全教育を柱とし、恵まれた実習環境のなか、個性を尊重した教育を提供しました。

学生は、伝統を受け継ぎ、赤十字のボランティア活動への参加や実習での豊富な体験などを通じて、看護のあり方と人道の精神を身につけ、患者の心に寄り添う看護師に成長していきます。

卒業生は、岡山赤十字病院をはじめ、さまざまな分野で活躍し、社会に貢献しています。



学生数

令和2年3月31日現在

1年生	45人
2年生	39人
3年生	41人
計	125人

5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和元年度における岡山県の献血者数は、77,936人（対前年度比102.4%）、人数で前年度に比べ1,807人の増となりました。

内訳としては、400mL 献血者が52,346人（対前年度比100.3%）、200mL 献血者が1,331人（対前年度比78.2%）、成分献血者が24,259人（対前年度比109.1%）となりました。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	献血者数			割合
	男	女	計	
200mL 献血	307人	1,024人	1,331人	1.7%
400mL 献血	40,095人	12,251人	52,346人	67.2%
血漿成分献血	8,949人	5,334人	14,283人	18.3%
血小板成分献血	8,632人	1,344人	9,976人	12.8%
計	57,983人	19,953人	77,936人	100.0%

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数	4,322人	11,296人	13,006人	22,186人	27,126人	77,936人
割合	5.5%	14.5%	16.7%	28.5%	34.8%	100.0%

●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 固定施設の活性化

●その他の事業

- 骨髄ドナー登録の推進
- 医療情報活動の充実
- 地域に開かれた血液センターの展開
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活や災害時など急病やけがをしたとき、いつでも手を差しのべて手当をしたり、日頃から健康に気をつけて快適な生活が送れるよう、各種講習を展開しました。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により令和2年2月末からは全講習を中止しました。

●救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するため、講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	43	1,106	1,104
	救急員養成講習	20	464	455
	短期講習	252	10,732	
計		315	12,302	1,559

●水上安全法

水の事故を防止し、積極的に水を活用して健康を増進し、万一事故が発生した場合には救助者自身の安全を確保しつつ事故者を救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するため、講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	11	9
	救助員Ⅱ養成講習	1	9	9
	短期講習	15	885	
計		17	905	18

●雪上安全法

雪を活用して健康の増進を図り、雪上の事故から生命を守るための知識や技術を普及するための講習ですが、令和元年度は開催しませんでした。

種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
雪上安全法	救助員Ⅰ養成講習	0	0	0
計		0	0	0

●幼児安全法

こどもに起こりやすい事故の予防と応急手当の方法、病気への対応の仕方の知識や技術を普及するため、地域、職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	3	52	50
	短期講習	64	1,624	
計		67	1,676	50

●健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に役立つ介護技術を普及するため、支援員の養成講習を開催するとともに、地域の要望により指導員を派遣し、「高齢者の健康と安全」「リラクゼーション」「介護技術について」「災害時高齢者生活支援」等の講習を実施しました。



種別			実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習		3	30	28
	短期講習	災害時高齢者生活支援講習	6	207	
		上記を除く短期講習	63	2,350	
	計		72	2,587	28

●健康生活支援講習を柱にした地域包括ケアの推進

超高齢社会の中、自分でできることはできるだけ自分ですするという「自助」の意識の醸成と、地域の高齢者は地域コミュニティで支え合うという「互助」を実践する地域づくりが課題となっています。

高齢者が可能な限り住み慣れた地域や自宅で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域ぐるみで支え合うことを「地域包括ケア」と呼びます。



令和元年度は、赤十字講習の一つである健康生活支援講習等の知識や技術を活用しながら、主に赤十字組織内や市町村との連携強化に努めました。

●救急法競技大会

競技を通じ、赤十字救急法で学ぶ応急手当や救命手当の手技を習熟し、日常生活における安全意識を高めることを目的として開催しています。

令和元年度は10月26日（土）に岡山赤十字看護専門学校体育館において「第5回岡山県赤十字救急法競技大会」を開催しました。



●ワールド・ファーストエイド・デー（世界救急法の日）

国際赤十字・赤新月社連盟が主唱する「ワールド・ファーストエイド・デー」（世界救急法の日=9月第2土曜日）に合わせて、救急法を身近に感じてもらうことを目的に、令和元年度は9月22日（日）に「エブリー Okanaka 津高」において、救急法と音楽を融合したイベント「リズムでポコポコ～音楽に合わせて人命救助に挑戦～」を開催しました。地域に密着した形で実施するため参加型のイベントとし、救急法講習への参加意識の醸成や防災意識の向上に努めました。



救急法講習への参加意識の醸成や防災

●AED（自動体外式除細動器）貸出

県内各地で開催されるイベント等の主催者に、岡山県支部所有のAEDを貸し出すことにより、心肺停止等の傷病者の救命活動に備えています。

あわせて、県民がAEDに身近に触れる機会を提供することにより、支部が行う救急法等の普及促進を図り、県内各地における岡山県支部の活動への理解を求めることを目的としています。

令和元年度は計38件の貸出を実施しました。



7

赤十字ボランティア

赤十字ボランティア（赤十字奉仕団）は、赤十字が使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された組織です。

会員の募集、救護活動、献血の推進等さまざまな支援活動や、県内各地で地域のニーズに応じた社会活動を繰り広げており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

市町村の地域ごとに組織される「地域赤十字奉仕団」、アマチュア無線や点訳など専門技術を活かし特定の活動のために集まった人々によって組織される「特殊赤十字奉仕団」、社会人や学生によって組織される「青年赤十字奉仕団」が活動を展開しました。

●地域奉仕団の養成

令和元年6月の「赤十字ボランティア養成研修ガイドブック」の完成を機に、これまでの「リーダーシップ研修会」に替えて「基礎研修会」を開催しました。研修会の企画段階から運営まで赤十字奉仕団支部指導講師も参画し、活動経験の少ない奉仕団員にも赤十字やボランティア活動への理解を深めていただきました。

●特殊奉仕団による活動

赤十字奉仕団としての資質を向上し、より積極的に活動が展開できるよう研修を実施するとともに、次の活動を行いました。

- ①救護活動
- ②視覚障がい者支援のための点訳
- ③救急法等講習の普及活動
- ④その他支部事業への協力

●青年奉仕団による活動

赤十字や防災に関する基礎知識を習得するため独自に研修会を開催したほか、他の奉仕団等と連携した活動が展開できるよう、令和元年8月23日～25日に鳥取県で開催された「中国・四国ブロック研修会」や令和元年8月24日～26日に東京都で開催された「赤十字ボランティア・リーダー研修会」に青年奉仕団員が参加しました。

●防災ボランティアの登録

災害発生時に迅速かつ有効な災害救護活動を行うため、防災ボランティアを募り、登録いただいています。

また、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」等に参画し、県下の防災関連ボランティアの連携強化に努めています。



8

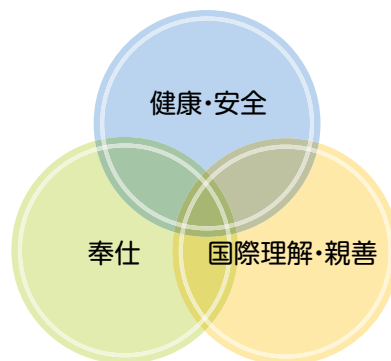
青少年赤十字（JRC）

青少年赤十字（JRC）は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切にする人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場において教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

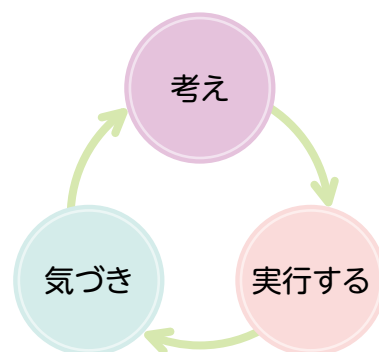
その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取り組みに合わせた活動を展開しています。

令和元年8月には小・中・高校合同で「リーダーシップ・トレーニング・センター（宿泊研修）」を開催しましたが、令和2年2月以降は新型コロナウイルスの感染拡大により、全県を対象とした青少年赤十字活動は中止しました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園)数	児童・生徒数（人）			グループ数
		男	女	計	
幼稚園	2	126	129	255	11
保育園	30	1,375	1,367	2,742	146
小学校	49	6,605	5,585	12,190	530
中学校	31	2,717	2,667	5,384	211
高等学校	37	4,002	2,952	6,954	268
特別支援学校	4	58	31	89	11
計	153	14,883	12,731	27,614	1,177

※中学校・高等学校加盟校数には、それぞれ一貫校4校を含む



赤十字の理念や活動内容を一人でも多くの方々にご理解いただくことを目的として積極的なメディア露出に努めたほか、活動資金の増強につながる広報に重点を置き、以下の広報活動を展開しました。

● 広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区・分区、協力者等への「赤十字 NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット・チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の作成・配布



● メディア広報

- CM 放送（テレビ・ケーブルテレビ・AM・FM）
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告
- 新聞への記事広告掲載
- フェイスブックページでの積極的な情報発信



● 広報イベント

- 企業・地域等主催イベントにおける赤十字ブース（キッズ救護服撮影、車両展示、パネル展示等）の出展



● 岡山赤十字フェスティバル

令和元年5月22日、岡山赤十字病院において医療や看護、救護活動など赤十字の特色を生かし、赤十字に親しんでいただくこと、また、広報活動の一環として体験型イベント「岡山赤十字フェスティバル」を開催しました。

令和元年度で5回目の開催となり、来場者数は1,040人でした。



会員の加入促進と活動資金の募集

日本赤十字社岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保を図る必要があります。

このため、5月の「赤十字運動月間」を中心に、赤十字会員への加入勧奨を行いました。

また、ダイレクトメールによる協力依頼のほか、赤十字活動支援自動販売機やクレジットカード決済等による活動資金の募集にも努めました

●活動資金の件数及び実績額

令和2年3月31日現在

地区名	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	60,080	45,269,644
倉敷市地区	53,207	38,139,666
津山市地区	10,930	9,935,600
玉野市地区	11,234	8,255,900
笠岡市地区	10,653	7,850,500
井原市地区	8,971	5,831,750
総社市地区	10,867	9,811,750
高梁市地区	6,732	5,464,348
新見市地区	4,336	3,920,500
備前市地区	6,584	4,904,900
瀬戸内市地区	5,422	4,440,200
赤磐市地区	5,696	4,851,814
真庭市地区	8,457	6,779,940
美作市地区	5,533	4,416,200
浅口市地区	5,782	4,680,800
和気町分区	3,343	2,563,300
吉備中央町分区	1,441	1,291,000
早島町分区	1,117	732,200
里庄町分区	2,668	1,354,950
矢掛町分区	3,634	3,542,050
新庄村分区	219	181,200
鏡野町分区	2,011	1,898,500
勝央町分区	1,908	1,787,500
奈義町分区	1,124	1,557,500
西粟倉村分区	379	324,500
久米南町分区	1,092	868,000
美咲町分区	2,770	1,978,200
支部扱い	4,327	269,099,912
計	240,517	451,732,324

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・赤十字活動支援自動販売機・クレジットカード決済等

※個人住民税控除対象となる海外救援金（25,000円）を除く

●全国赤十字大会

令和元年5月22日、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁の秋篠宮妃紀子さま、常陸宮妃華子さま、寛仁親王妃信子さま、高円宮妃久子さまをお迎えし、東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」が開催され、岡山県からも、多額の活動資金にご協力いただいた方々らが参会しました。



5月1日に皇后陛下が日本赤十字社の名誉総裁に就任されたばかりで、皇后陛下が名誉総裁として登壇される初めての「全国赤十字大会」でした。

大会では、「平成30年7月豪雨災害」で救護活動を指揮した岡山赤十字病院医療社会事業部長が名誉総裁や参会者に対し、活動の報告を行いました。

●赤十字有功章等伝達式

令和元年10月15日、日本赤十字社岡山県支部において「日本赤十字社有功章等伝達式」を開催し、多額の活動資金にご協力いただいた方々や功労者に対し、伊原本隆太支部長から赤十字有功章や感謝状等の伝達を行いました。

種別及び受章者数

種別		受章者数
日本赤十字社社長感謝状	個人	9人
	法人	13社
金色有功章	個人	10人
	法人	25社
銀色有功章	個人	11人
	法人	26社
紺綬褒章	個人	0人
	法人	0社
厚生労働大臣感謝状	個人	2人
	法人	2社



●遺贈・相続財産による寄付の推進

近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学べる「赤十字終活セミナー」を令和元年度より開催し、岡山市と津山市で初開催しました。

いずれも定員を上回る方々からお申込みをいただきました。

令和2年2月にも開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止しました。



令和元年度一般会計歳入歳出決算概要

(単位：千円)

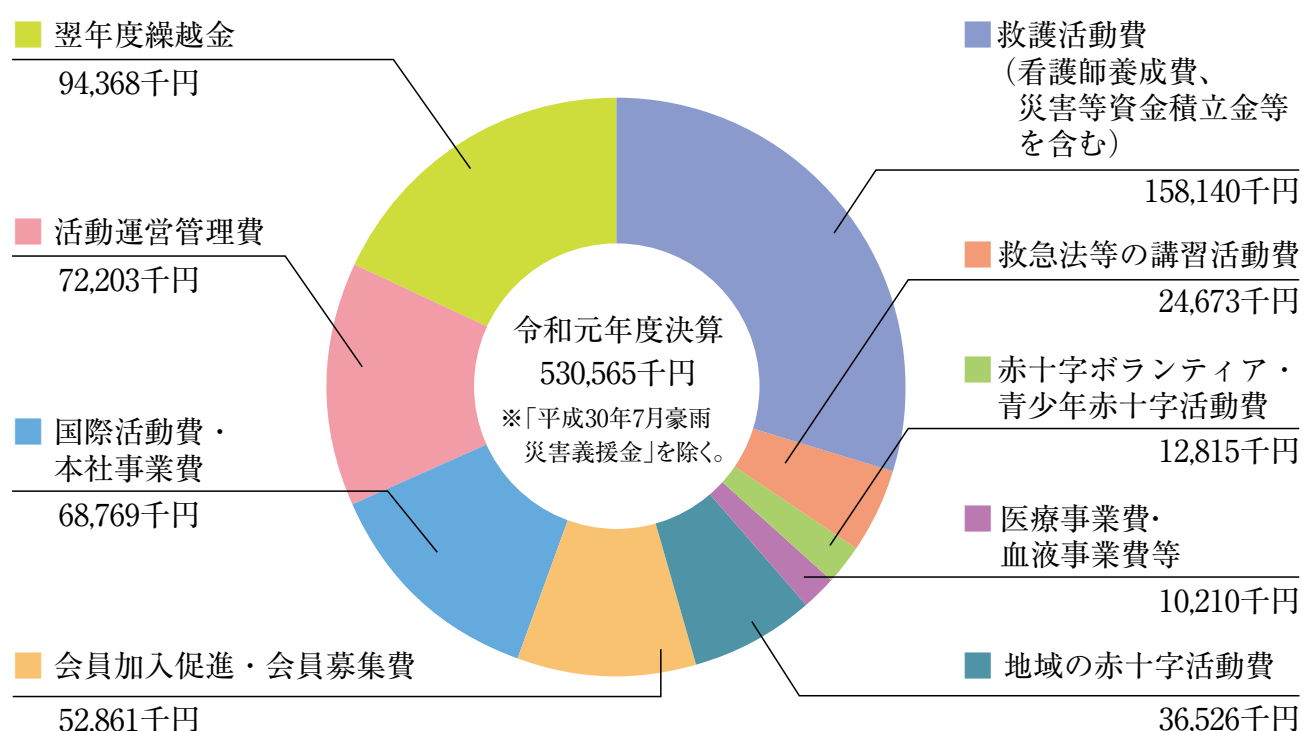
科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	451,757
本社交付金収入	1,074
資金繰入金収入等	958
各種講習教本代等雑収入	4,579
前年度繰越金	72,197
歳 入 計	530,565
救護活動費（看護師養成費、災害等資金積立金等を含む）	158,140
救急法等の講習活動費	24,673
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	12,815
医療事業費・血液事業費等	10,210
地域の赤十字活動費	36,526
会員加入促進・会員募集費	52,861
国際活動費・本社事業費	68,769
活動運営管理費	72,203
翌年度繰越金	94,368
歳 出 計	530,565

●平成30年7月豪雨災害義援金

(単位：千円)

受付額（令和元年度）	152,703	※
岡山県災害義援金配分委員会への送金額	299,084	
（内訳）平成30年度受付分	160,673	
令和元年度受付分	138,411	※

※差額14,292千円は令和2年度に送金予定



名 簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和2年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年2月14日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	宮長 雅人	株式会社中国銀行 取締役会長	平成28年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日
参与	相沢 八郎	元日本赤十字社岡山県支部 事務局長	平成3年4月1日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和2年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年1月23日
副支部長	片岡 聡一	岡山県市長会 会長・総社市長	令和元年6月6日
監査委員	宮崎 孝司	元川上町長	平成19年1月23日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
参与	中谷 祐貴子	岡山県保健福祉部長	平成30年7月31日
参与	柴田 義朗	岡山県保健福祉部次長	平成31年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和2年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 槇子	〃	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	〃	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	〃	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	〃	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	〃	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	土屋 紀子	〃	倉敷市婦人協議会 会長	平成30年5月29日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	黒田 晋	玉野市	玉野市長	平成18年1月11日
11	小林 嘉文	笠岡市	笠岡市長	平成28年4月24日
12	大舌 勲	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聡一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	近藤 隆則	高梁市	高梁市長	平成21年1月16日
15	池田 一二三	新見市	新見市長	平成29年2月20日
16	田原 隆雄	備前市	備前市長	平成29年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	山本 雅則	備前	吉備中央町長	平成24年10月24日
23	草加 信義	〃	和気町長	平成30年4月16日
24	中川 真寿男	備中	早島町長	平成27年8月28日
25	加藤 泰久	〃	里庄町長	平成30年2月5日
26	山野 通彦	〃	矢掛町長	平成18年6月29日
27	小倉 博俊	美作	新庄村長	平成26年9月8日
28	青野 高陽	〃	美咲町長	平成30年12月9日
29	片山 篤	〃	久米南町長	平成28年7月24日
30	山崎 親男	〃	鏡野町長	平成19年2月14日
31	水嶋 淳治	〃	勝央町長	平成23年9月12日
32	奥 正親	〃	奈義町長	平成31年2月15日
33	青木 秀樹	〃	西粟倉村長	平成23年9月12日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	〃	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長	平成25年2月14日
36	岡崎 彬	〃	岡山ガス株式会社 代表取締役会長	平成13年2月14日
37	桑田 茂	〃	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長	平成29年6月29日
38	大本 万平	〃	株式会社大本組 代表取締役社長	平成25年2月14日
39	金谷 征正	〃	岡山県商工会連合会 会長	平成30年5月30日
40	大西 泰子	〃	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	〃	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

令和2年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塩見 楨子	平成25年4月1日	37	474	0	7,327	7,327
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	加藤 恵子	平成8年4月1日	1	6	1	140	141
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	大矢 禎子	平成19年4月1日	5	15	0	245	245
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 榮子	平成31年4月1日	0	8	0	50	50
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	6	0	0	50	50
6	倉敷市真備赤十字奉仕団	昭和40年5月1日	松王 資子	平成28年4月1日	1	4	0	91	91
7	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	有岡 恵子	平成16年4月1日	0	0	0	29	29
8	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	(選出手続き中)		11	6	67	95	162
9	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	250	250
10	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	笠行 和美	令和元年6月10日	0	6	0	3,116	3,116
11	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	11	0	12	778	790
12	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	245	245
13	高梁市有漢町赤十字奉仕団	昭和31年5月21日	佐分利 睦子	平成30年5月27日	1	1	5	40	45
14	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	黒川 利子	平成30年4月1日	1	4	0	106	106
15	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	中山 美江	平成22年5月7日	1	1	5	93	98
16	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	池永 繁子	平成22年4月1日	0	0	0	109	109
17	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	27	34
18	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	垣上 敦子	平成30年4月1日	1	1	0	75	75
19	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	永田 喜代	平成26年5月22日	1	3	4	45	49
20	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	小田 清	平成21年6月16日	0	0	31	58	89
21	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	立川 涼子	令和元年8月13日	8	0	0	165	165
22	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成22年4月1日	1	1	0	75	75
23	真庭市赤十字奉仕団	昭和43年4月1日	國本 幸恵	平成23年7月29日	3	0	5	173	178
24	美作市勝田赤十字奉仕団	平成18年4月1日	松本 基	平成28年12月1日	1	16	13	3	16
25	美作市美作赤十字奉仕団	昭和39年9月1日	栗井 澄子	平成26年6月1日	0	0	2	12	14
26	美作市作東赤十字奉仕団	平成3年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	4	0	58	58
27	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山田 直子	平成20年4月1日	12	20	0	110	110
28	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	11	0	105	105
29	和気町赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	30	30
30	早島町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	100	100
31	里庄町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	山田 恵津子	平成20年4月1日	1	19	0	859	859
32	勝央町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	笠尾 和子	令和元年12月3日	1	1	14	20	34
33	美咲町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	大西 泰子	平成17年3月22日	0	3	0	552	552
34	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	片山 朋子	平成30年4月1日	3	3	0	194	194
合計					117	612	166	15,425	15,591

青年赤十字奉仕団名簿

令和2年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県青年赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	伊藤 友介	平成31年4月12日	18	15	33
2	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	岡田 みなみ	平成31年4月1日	6	78	84
3	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	時光 千春	平成31年4月9日	10	30	40
合計					34	123	157

特殊赤十字奉仕団名簿

令和2年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	日本赤十字社岡山県支部機動奉仕団	昭和41年9月8日	前田 晃	平成17年9月7日	25	4	29
2	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	7	25	32
3	日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団	平成9年6月1日	白木 聡一	平成30年4月21日	76	80	156
4	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	30	7	37
5	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	鴨井 正博	平成30年4月24日	26	3	29
6	岡山県赤十字救護奉仕団	平成18年3月3日	鈴木 健二	平成18年3月3日	45	29	74
合計					209	148	357

岡山県赤十字有功会役員名簿

令和2年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役社長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	(欠)	
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県遊技業協同組合 理事長
理事	遠藤 俊夫	岡山県貨物運送株式会社 代表取締役社長
理事	桑田 茂	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長
理事	原田 育秀	株式会社中国銀行 代表取締役専務
理事	大本 万平	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
顧問	榊原 宣	心臓病センター榊原病院 名誉理事長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 代表理事理事長
顧問	木住 勝美	株式会社天満屋 代表取締役会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長
幹事	上原 毅	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



最新情報はFacebookページをご覧ください

<https://www.facebook.com/japaneseredcross.okayama>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <http://www.okayama.jrc.or.jp>